

会 報

No.76 (2003年11月)

目 次

◆Genes to Cells 編集部よりお知らせ	1
◆2002年度会計収支決算報告	3
◆2002年度会計監査報告	4
◆第26回 (2003年) 日本分子生物学会年会のお知らせ (その3)	4
◆第26回総会のご案内	7
◆日本分子生物学会三菱化学奨励賞受賞式および受賞講演のご案内	7
◆第4回日本分子生物学会春季シンポジウムのご案内	8
◆学術賞、研究助成の本学会推薦について	8
◆各種集会、シンポジウム、講習会等のお知らせ	9
○愛知県発達障害研究所公開シンポジウム2004 「糖鎖が拓く発達障害研究：線虫からヒト疾患まで」	9

日 本 分 子 生 物 学 会

(THE MOLECULAR BIOLOGY SOCIETY OF JAPAN)

URL : <http://wwwsoc.nii.ac.jp/mbsj/>

年会ホームページ：<http://edpex104.bcasj.or.jp/mbsj2003/>

日本分子生物学会入会申込先：

URL: <http://bunshi.bcasj.or.jp>

年会に関する問合せ先：

第26回日本分子生物学会年会事務局

〒560-0082 豊中市新千里東町1-4-2 千里ライフサイエンスセンタービル14階

(働)日本学会事務センター大阪事務所

E-mail: bunshi26@bcasj.or.jp

TEL: (06)6873-2301 FAX: (06)6873-2300

宿泊に関する問合せ先：

JTB 西日本イベント・コンベンション営業部

「第26回日本分子生物学会年会係」

担当：崎元

〒541-0053 大阪市中央区本町2-1-6 堺筋本町センタービル

TEL: (06)6260-5060 FAX: (06)6260-5090

E-mail: machiko_sakimoto@kns.jtb.co.jp

◆ Genes to Cells 編集部よりお知らせ

編集長の報告

本雑誌の編集、出版、購読にはかねがねご協力いただき感謝しております。

8巻の編集も完了し、刊行事業はほぼ順調に進んでいます。世界的に急速に変わりつつある出版事情に対応するため出版社と交渉をかさねてきましたが、いくつかの進展がありましたのでご報告いたします。何れも online 刊行に関連したものです。雑誌はこれまで刊行後はじめの1か月は誰でも無料で読めましたが、さらに6か月後も無料で読めるようにしました。これまでのように刊行後時間を経ると読むのが困難となる、という不便がほぼ解決されました。これからは皆様の論文は、不自由なく読まれ続けることと思います。さらに、受理された論文は受理次第、順次に online で公開されるようになりました。発表を急がれる方には好都合でしょう。また現在、Synergy を通してだけ online の検索ができましたが、やがて Highwire を通しての検索ができるようになります。

また、9月からは Scholar One 社を通じての Electronic Submission と Editing を始めました。初めは当方の不馴れなどで、手こずることもあるかも知れませんが、1か月足らずの現在、すでに半数の投稿は Electronic Submission です。案ずるより生むが早いということでしょうか。追々この方法が主流となることでしょうか。しかし、従来の Paper Submission も受付けております。

さて、このように論文の刊行については一流の国際誌並みになりましたが、雑誌の刊行に関して、最も重要なことは最早刊行の手段や流通ではなく、どのようにして優れた論文の投稿が得られるかにあります。この点に関しては、ひとえに皆様のご理解とご協力、特に編集のご努力に期待するほかはありません。いわゆる一流誌が理不尽にブランド名をふりかざし、不公平な宣伝をしているのは、特に科学の世界では望ましくないことと苦々しく思っています。これに関連して、日本の研究者は、日本人による論文をより積極的に引用してもよいと感じております。しかし、雑誌は掲載される論文の質によって評価され、その評価が個々の論文の評価に反映します。優れた論文を掲載することと、雑誌の宣伝とを通じて、この面でも特に日本での研究の推進に役立てたいと思っています。

そのために、最も重要なのは論文のもつ魅力となるかと思えます。この点で最大の問題は、著者の側にあります。Genes to Cells は世界的にも比較的数少ない、間口の広い一般誌です。私はこの特徴を保ちたいと思えますが、そのためには、それぞれの著者が専門を越えた読者を考えて論文を書くことが必要です。この雑誌の扱う学問は、専門分野に細分しては成り立ってゆかないと思えます。著者が、進んで他の分野の方々に語りかける努力が望まれるわけです。おそらく、その努力は論文の評価を高めることによって報われるでしょう。この時に最も効果的なのは、専門外の方々のご批判をいただくことだと思います。この段階で時間をとることは、論文の受理を容易にし、時間を短くする効果もあります。実は、その前にさらに大切なのは共同研究者との十分な討論です。日本ではこのことが十分に行われていないように思えてなりません。それぞれ限度はあるにしても、提出した論文の討議に参加せず、また論文の内容を理解していない研究者は著者名から外すべきだと思います。また、ここで言う論理に基づく討議は、何にもまして優れた教育の場であると思えます。勿論教育は双方向です。

論文自体について言えば、内容は勿論ですが、はじめに読者に接することになる表題は重要です。論文の評価は表題の良否から始まります。表題は著者が自分の仕事を如何に評価するかのあらわれでもあると思っています。この点からも専門用語、略語はできるだけ避け、なるべく多くの読者にわかりやすいものにして下さい。この点、アブストラクトも同様です。

記すまでもないことですが、原稿の作成には投稿規定を遵守して下さい。この雑誌の規定は、私の性格を表して極めてルーズです。細かい事は気にしません。それでも、編集室の最大の仕事は、引用の間違いの訂正のような細かいことです。驚くことですが、引用の内容や、形式に不都合のない論文は少数です。また、図表は仕上がりをよく考えて作成して下さい。字の大きさ等、美感を疑わせるものが少なくありません。印刷所に変更を求めることもあります。手元で印刷しているわけではないので思

うにまかせません。略号の使用は最小限にし、必要なものは初めて記載されるときに本文中に示して下さい。Web Submission の場合は、特に規定を守ることが大切です。規定を外れた投稿は、受理できない場合もあります。

最近規定が変更されました。例えば、Abstract は 1 節、200 字以内で、background, results, conclusion に分けません。しかし、その精神は尊重して下さい。さらに、細部や Web Submission の手順は学会ホームページをごらん下さい。

皆様の投稿をお待ちしています。

ご意見がありましたら tomizawa@lab.nig.ac.jp までお寄せ下さい。

2003年10月3日

富澤純一 (Genes to Cells 編集長)

2004年よりの編集委員 (アルファベット順)

Editors

成宮 周	谷口紹維	山本正幸	柳田充弘	
H. Blau	A. Ephrussi	G. Felsenfeld	M. Gellert	B. Hogan
T. Hunt	T. Hunter	R. Roeder	M. Yanif	

Associate Editors

饗場弘二	相澤慎一	荒木弘之	箱嶋敏雄	濱田博司
花岡文雄	半田 宏	林 茂生	石井俊輔	石川冬木
貝淵弘三	桂 勲	岸本健雄	小原雄治	近藤寿人
小安重夫	町田泰則	宮園浩平	鍋島陽一	長田重一
中村義一	中野明彦	中山敬一	西田栄介	岡田清孝
岡野栄之	大隅典子	大隅良典	嶋本伸雄	田賀哲也
高井義美	田中啓二	田坂昌生	辻 省次	月田承一郎
山本雅之	山本 雅			
D. Barlow	K. Basler	D. Bishop	J. Cooper	X-W. Deng
C. Desplan	D. Duboule	S. Elledge	R. Flavell	S. Gasser
C-H. Heldin	Y. Ito	L. Jan	N. Jones	S. Keeney
B. Kingston	N. Kleckner	S. Kowalczykowski	S. McKnight	Y. Nakatani
H. Nash	A. Nicolas	M. Roussel	J. Ruderman	P. Russell
P. Sassone-Corsi	A. Strasser	P. Sung	T. Toda	E. Wagner
J. Yuan				

委員については少数の入れ替えがあると思います。雑誌、ホームページ、会報等でお知らせします。

◆日本分子生物学会2002年度会計収支決算報告

2002年度学会会計収支決算は以下の通りになりましたのでご報告いたします。

(第12期 会計幹事 仁木宏典)

2002年度日本分子生物学会収支決算報告書

(2002年4月1日 ~ 2003年3月31日)

収入の部

単位：円

科 目	予算額	決算額	備 考
学 会 費	45,600,000	49,836,125	正会員会費： <u>36,180,000円</u> (2002：4500円 × 7678名、他：1,629,000円)
賛 助 会 費	1,350,000	1,320,000	学生会員会費： <u>10,666,500円</u> (2002：3000円 × 3234名、他：954,500円)
広 告 収 入	2,000,000	2,034,480	海外会員会費(215名)： <u>856,125円</u>
預 金 利 子	120,000	18,818	入会金(2133名分、他差額入金) <u>2,133,500円</u>
国 際 誌 購 読 謝 礼 金	0	1,337,292	ブラックウエル社より
雑 収 入	50,000	67,800	
寄 付 金 収 入	0	6,000,000	
収 入 小 計	49,120,000	60,614,515	
前年度繰越金	28,698,770	28,698,770	
合 計	77,818,770	89,313,285	

支出の部

科 目	予算額	決算額	備 考
事 業 費	24,800,000	25,100,202	
会報発行	3,200,000	2,265,093	72,73号印刷、74号はPDF版制作まで
年会補助金	5,000,000	5,000,000	
春季シボゾウム補助金	7,000,000	7,000,000	
国際誌発行支援金	4,000,000	5,432,800	
// オンラインアクセス費用	3,500,000	4,356,500	ブラックウエル社支払い
国際誌購読関係費	800,000	761,334	(フリアクセス料100万円、2月に追加送金)
ホームページ関係費	300,000	284,475	無停電電源装置購入(年会用PC)、広報幹事謝金
その他	1,000,000	0	
評 議 委 員 会 費	6,500,000	7,004,444	
委員会費	1,000,000	528,534	
選挙・名簿作成費	5,500,000	6,475,910	
業 務 委 託 費	12,000,000	14,055,840	
一 般 事 務 費	13,900,000	12,119,370	
印刷費	400,000	371,370	
通信費	12,500,000	11,383,215	プログラム、会報、会員名簿等 郵送料
庶務事務費	650,000	0	
雑 費	350,000	364,785	
予 備 費	2,000,000	1,961,747	名簿調査カード 関係費用(Webアクセス更新者を除く)
支 出 小 計	59,200,000	60,241,603	
次年度繰越金	18,618,770	29,071,682	
合 計	77,818,770	89,313,285	

◆2002年度会計監査報告

日本分子生物学会2002年度収支決算報告に際し、会計帳簿、銀行残高証明書、領収書、日本学会事務センター出納記録などの監査を行い、決算に誤りのないことを確認しました。

日本分子生物学会第12期会計監査

2003年6月17日 辻 本 賀 英 ㊦

2003年6月17日 滝 澤 温 彦 ㊦

◆第26回（2003年）日本分子生物学会年会のお知らせ（その3）

第26回日本分子生物学会年会は、2003年12月10日（水）から13日（土）までの4日間、神戸国際展示場、神戸国際会議場、ポートピアホテル、ワールド記念ホール、神戸商工会議所会館で開催されます。奮ってご参加下さい。

本年度年会の概要は次の通りです。詳細は、同封のプログラムを参照して下さい。

会 期：2003年12月10日（水）～13日（土）

会 場：神戸国際展示場、神戸国際会議場、ポートピアホテル、ワールド記念ホール、神戸商工会議所会館
（神戸市中央区港島中町6丁目）

参加受付：2003年12月10日（水）午前8時10分より

当日参加費：正会員 10,000円、学生会員 7,000円、非会員 11,000円
（受付は神戸国際展示場2号館1階に設けております）

発表について：

シンポジウム

12月10日（水）～13日（土）9：00～11：30（4日目は9：45～11：00）

67テーマ：演題数 456件

（うち一般演題から76件が採用されました）

一般演題（口頭発表）

12月10日（水）～13日（土）16：00～18：00（4日目は14：00～16：00）

129セッション：演題数 618件

一般演題（ポスター発表）

12月10日（水）～13日（土）9：00～18：00

演題数 3,028題

説明・討論 初日～3日目は13：45～15：45、4日目は12：00～13：45

レクチャー：

12月10日（水）

9：00～10：15 岡田清孝教授（京大・院理）
植物の形づくりの理解を求めて

- 10：15～11：30 中西重忠教授（京大・院医）
細胞間情報伝達の理解に向けて
—生命科学の黎明期の中で—
- 12月11日（木）
- 9：00～10：15 宮田 隆教授（京大・院理）
生物の多様性と遺伝子の多様性
- 10：15～11：30 小原雄治教授（国立遺伝研）
「偶然と必然」の生命システム
—ゲノムがいよいよ面白い—
- 12月12日（金）
- 9：00～10：15 岡崎恒子教授（藤田保衛大）
哺乳類人工染色体に挑戦した20年
- 10：15～11：30 大隅良典教授（基生研）
顕微鏡から分子、そして再び顕微鏡へ
- 12月13日（土）
- 9：45～11：00 竹市雅俊教授（理研神戸・CDB）
細胞ジッパーの謎をとく

特別企画「バイオリソース」コーナー

PB会場（神戸国際展示場1号館1階）に、ポスター会場、機器・書籍・展示会場と併設して、特別企画「バイオリソース」コーナーを設けます。

特別企画「組換えDNA実験指針の法制化」に関する説明会

12月10日（水）18：15～19：15 C会場（神戸国際会議場 1階メインホール）
文部科学省より、日本分子生物学会員に対し、説明が行われます。詳細につきましては、プログラムでご確認下さい。

特別企画「第2回男女共同参画シンポジウム キャリア形成とライフサイクル」

12月12日（金）18：15～20：00 E会場（神戸国際会議場 4階401+402）
詳細につきましては、プログラムでご確認下さい。

市民公開講座「生き物を分子の言葉で語る」

12月14日（日）13：00～17：00 名古屋・テレビアホール（名古屋市東区東桜1-14-25）
昨年度の第25回年会で、中・高生を含む一般市民を対象とした公開講座が好評だったことから、今年度も日本分子生物学会員に講師をお引き受け頂き、以下の公開講座を年会終了後に開催いたします。

講 師：

石川冬木先生（京大・院生命科学）

人はなぜ老いるのか？

阿形清和先生（理研・発生再生研）

プラナリアの高い再生能力を支える細胞システムを解読する

荒木 崇先生（京大・院理）

植物がきまった季節に花を咲かせるしくみ

バイオテクノロジーセミナー：

12月10日（水）～12日（金）12：00～13：30 38テーマ

ランチョンセミナーの形式で行います。参加企業につきましては、プログラムでご確認下さい。

講演要旨集：

講演要旨集は、11月25日（火）に発行を予定しております。年会に参加を申込まれた方（参加費に講演要旨集1冊の代金が含まれています）、および講演要旨集を申込まれた方には事前にお送りいたしません。

年会期間中の宿泊のご案内：

本年会での宿泊予約業務は、JTB 西日本イベント・コンベンション営業部に依頼しております。会報 No. 75に綴込んだ「宿泊ホテルのご案内」、および年会ホームページの「会期中の宿泊のご案内」をご利用下さい。お申込・問合せは下記に直接ご連絡下さい。

〒541-0053 大阪市中央区本町2-1-6 堺筋本町センタービル

JTB 西日本イベント・コンベンション営業部

「第26回日本分子生物学会年会係」

担当：崎元

Tel：(06)6260-5060 Fax：(06)6260-5090 E-mail：machiko_sakimoto@kns.jtb.co.jp

年会に関する問合せ先：

第26回日本分子生物学会年会 事務局

〒560-0082 豊中市新千里東町1-4-2

千里ライフサイエンスセンタービル14階 財団法人日本学会事務センター大阪事務所

Tel：(06)6873-2301 Fax：(06)6873-2300 E-mail：bunshi26@bcasj.or.jp

年会期間中の保育室開設のお知らせ：

本年度も下記の要領で保育室および親子休憩室を開設いたします。

[保育所の開設]

期 間：2003年12月10日（水）～13日（土）の4日間

保育時間：原則、年会プログラム開始時間の30分前～プログラム終了時間の30分後。

12月10日（水） 8：30～19：45

12月11日（木） 8：30～21：00

12月12日（金） 8：30～21：00

12月13日（土） 8：30～16：30

原則、お子様の昼食は一緒におとり下さい。

対 象：生後8週以降から小学校3年生まで（4年生以上も応相談）

保育形態：ベビーシッター会社からの派遣シッターによる託児

委 託 先：㈱ポピンズコーポレーション（芦屋支社）

保 育 料：0歳児：800円/時間、1歳児～5歳児：600円/時間、6歳時以上：400円/時間

申込み先：㈱ポピンズコーポレーション（芦屋支社）

Tel：0797-32-2100（受付時間9：00～17：30） E-mail：ashiya@poppins.co.jp

お申込みの際は、①利用日・時間（開始～終了） ②保護者のお名前 ③お子様のお名前・

年齢・性別 ④連絡先電話番号を必ずお知らせ下さい。

お申込みいただいた方には、ポピンズコーポレーションより事前にお電話で、お子様について詳細をお伺いいたします。メールでお申込みされた方で、12月6日（土）までに、ポピンズコーポレーションより電話連絡がない場合は、上記宛に必ず電話でご連絡下さい（メール受信不備等による申込み防止のため）。

申込締切：2003年12月5日（金）

なお、不測の事故に対応するために、シッター会社が保険に加入しており、保険適用範囲では補償されますが、日本分子生物学会および第26回年会組織委員会は、事故の責任を負わないことを申し添えます。

[親子休憩室の開設]

期 間：2003年12月10日（水）～13日（土）の4日間

年会プログラム開始時間の30分前～プログラム終了時間の30分後

場 所：神戸国際会議場 4階 405号室
神戸国際展示場2号館 2階 2B会議室
ワールド記念ホール 1階 控室E

予約は不要ですので、お子さまと一緒に食事や休憩、授乳あるいはオムツ換えなどにご利用下さい。ただし、お子さま単独でのご利用はご遠慮下さい。また、今後の参考に利用状況の調査を行います。利用された方は、部屋に備え付けのアンケート用のノートに利用者のお名前、所属、お子さまの人数、利用時間、その他意見などを記入して下さいますようお願いいたします。

なお、親子休憩室内で起きた事故や怪我に対して、日本分子生物学会および第26回年会組織委員会は、一切の責任を負わないことを申し添えます。

◆第26回総会のご案内

第26回年会の第2日目に、日本分子生物学会第26回総会を、下記の要領により開催いたしますので、多くの会員のご出席をお願いいたします。

（会長 山本正幸）

記

日 時：2003年12月11日（木）19：30～20：30

場 所：C会場（神戸国際会議場 1階メインホール）

（ご欠席の会員はこの会報に添付されている委任状をご提出下さい）

◆日本分子生物学会三菱化学奨励賞授賞式および受賞講演のご案内

日本分子生物学会細則の変更により、本年度より新たに19条に設けられました「日本分子生物学会三菱化学奨励賞」の授賞式 および 受賞講演を下記の要領により開催いたします。

記

日 時：2003年12月11日（木）18：15～18：30 授賞式

18：30～19：30 受賞講演

場 所：C会場（神戸国際会議場 1階メインホール）

◆第4回日本分子生物学会春季シンポジウムのご案内

会 期：2004年5月19日（水）～20日（木）

会 場：奈良県新公会堂（奈良市）

発表形式：1. 約15名の講師による口頭発表。（2002～2003年にかけて、めざましい研究成果を発表された方々に講演を依頼する予定です。）

2. 参加者によるポスター発表と学生や若手研究者の口頭発表。

オーガナイザー：河野憲二、田坂昌生、真木壽治、安田國雄（奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科）

問合せ・連絡先：

〒630-1902 生駒市高山町8916-5

奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科

E-mail : kyasuda@bs.aist_nara.ac.jp

Tel : (0743)72-5550 Fax : (0743)72-5559

◆学術賞、研究助成の本学会推薦について

本学会に推薦依頼あるいは案内のある学術賞、研究助成は、会報 No. 75（6月号）に一覧として掲載しております。そのうち、応募にあたり学会等の推薦が必要なものについての本学会からの推薦は、本学会選考委員会または賞推薦委員会の審査に従って行います。応募希望の方は、直接助成先に問合せ、申請書類を各自お取寄せ下さい。

本学会への推薦依頼の手続きは次の通りです。

1. 提出物

- 1) 本申請に必要な書類（オリジナルおよび募集要項に記載されている部数のコピー）
- 2) 研究助成・選考委員用および学会用控に、上記申請書類のコピー計6部（論文は不要）（賞推薦の場合はコピー計7部をご提出下さい。）
- 3) 申込受付確認のための返信封筒または葉書（返信用の宛名を記入しておいて下さい）

2. 提出先

※賞推薦についての送付先

日本分子生物学会 賞推薦委員長 岡田 清孝

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町 京都大学大学院理学研究科植物学

FAX : (075)753-4257

※研究助成についての送付先

日本分子生物学会 研究助成・選考委員長 辻本 賀英

〒565-0871 吹田市山田丘2-2 大阪大学大学院医学系研究科B 8 遺伝子学

FAX : (06)6879-3369

3. 提出期限

財団等の締切の1カ月前まで。提出期限後に受取った場合や、提出書類が不備な場合は、選考の対象にならないことがあります。

◆各種学術集会、シンポジウム、講習会等のお知らせ

○愛知県発達障害研究所公開シンポジウム2004
「糖鎖が拓く発達障害研究：線虫からヒト疾患まで」

日時：2004年2月7日（土）13：30～17：45

会場：愛知芸術文化センター12階
アートスペースA
〒461-8525 名古屋市東区東桜1-13-2
名古屋市営地下鉄 東山線、名城線「栄」駅
下車、東へ徒歩2分
Tel：(052)971-5511(代)
FAX：(052)971-5601
http://www.aac.pref.aichi.jp/

プログラム：

13：30～13：40 開会の挨拶

所長 加藤兼房
総合司会：仙波りつ子（周生期学部）

13：40～14：25

「バイオインフォーマティクスを利用したヒト糖鎖遺伝子の網羅的探索と機能解析」
成松 久（産業技術総合研・糖鎖工学研セ）
司会：大平敦彦（周生期学部）

14：25～15：10

「発生異常をひき起こす糖鎖関連遺伝子—モデル生物・線虫を用いた解析」
野村一也（九州大学・院・理）
司会：中山敦雄（発生障害学部）

15：10～15：30 ——休憩——

15：30～16：15

「コンディショナルノックアウトマウスが明らかにする神経発生におけるヘパラン硫酸の

多様かつ必須な機能」

山口 祐（The Burnham Inst., USA）
司会：細川昌則（病理学部）

16：15～16：55

「脳の構築と機能を制御するコンドロイチン硫酸プロテオグリカン」
大平敦彦（愛知県発達障害研究所・周生期学部）
司会：浅野富子（神経制御学部）

16：55～17：40

「糖鎖修飾異常による先天性筋ジストロフィー」
遠藤玉夫（東京都老人総合研究所・糖蛋白質研究G）
司会：若松延昭（遺伝学部）

17：40～17：45 閉会の挨拶

副所長 細川昌則

18：15～20：00 ——懇親会——

（愛知芸術文化センター10階 ガーデンレストラン華）
シンポジウム参加費：無料

懇親会費：5,000円（参加ご希望の方は、1月16日（金）までに事務局宛、お申込み下さい。）

事務局：〒480-0392 愛知県春日井市神屋町713-8
愛知県心身障害者コロニー・発達障害研究所
研究企画調整科（担当：柏井）

TEL：(0568)88-0811, 内線 3503

FAX：(0568)88-0829

E-mail：akashiwai@inst-hsc.pref.aichi.jp

新入会用 Web site URL : <http://bunshi.bcasj.or.jp/>

日本分子生物学会 会報

年 3 回刊行

第76号 (2003年11月)

発 行 : 日本分子生物学会 庶務幹事

製 作 : (財)日本学会事務センター 大阪事務所